

情報共有

1枚 (非管理用)

官印紙 NISA経 ← プス対応4-1

各位 福島支援室 レク概要

福島での本日のマスコミ対応について情報共有いたします。  
(15時～)

東京電力株式会社

以下、転送。

=====

7/19 (火) 15時定例レク概要

【説明内容】

① プラント関連パラメータ (7月19日 12:00現在) 【口頭説明】

② プラント状況・本日の作業状況等について 【口頭説明】

○1, 2号機原子炉注水量の変更について

・10:10頃～、1号機4m<sup>3</sup>/h→3.8m<sup>3</sup>/h  
2号機4.1m<sup>3</sup>/h→3.8m<sup>3</sup>/hへ変更

・台風の接近に伴い、雨水によるたまり水の上昇に備え、保有水量を減らす。

○作業員の熱中症の疑いについて (1名)

・8:40頃、5, 6号機北側土捨て場での低レベルガレキ置場の準備作業 (U字構設置の準備) を実施後、5, 6号機サービス建屋の休憩所での休憩中、体調不良を訴える。

・6:00～作業開始、8:20～休憩、8:40体調不良のため医療室へ移動、14:30発熱のため業務車にてJヴィレッジへ移動し、病院へ搬送予定。

○滞留水について

・11:00～停止、フラッシング後、4基のベッセル交換を実施する

・累積水処理量: 本日10時現在約24,360トン

・累積淡水化処理量: 本日8時現在約8,530トン

○3号機T/B屋根設置作業について

・予定通り実施中

③ 「福島第一原子力発電所・暴力団等排除対策協議会」の設立について 【資料配付】

【質疑】

Q. 熱中症の疑いの男性は東電社員か。

A. 協力企業の作業員。

以上

情報共有 5枚 (非管理Xセ)

宮師班, NISA班 ← プレス対応チーム

7/19 (火)、福島地域支援室19時30分レク概要  
～1F事故収束に向けた道筋進捗状況プレス概要～

【説明内容等】

○日時：7月19日 (火) 19:30～21:15

○場所：自治会館3階303会議室

○発表者：

○原子力安全・保安院 政府原子力災害現地対策本部

・平岡 英治 副本部長

・佐藤 暁 住民支援班長

○東京電力

・小森 常務取締役

・■■■■ 原子力品質・安全部長

・■■■■ 福島地域支援室長

・■■■■ 福島原子力補償相談室副室長

(司会) 原子力安全・保安院 政府原子力災害現地対策本部

木野 正登 広報班長

○保安院平岡次長の挨拶に引き続き、小森常務から一連の事故に対してのお詫び並びに牛からのセシウム検出による肉牛の出荷停止についてのお詫びを行い、1日も早く事故を収束し安心して生活してもらえるよう努力していく旨発言。

その後、資料説明を実施し質疑応答。内容は以下のとおり。

【質疑】

Q. 資料1-②P8、地下水の遮へい壁は具体的にどのような材質、方法を検討しているのか。

A. 検討段階ではあるが、鋼管のようなものを打ち込む技術があると聞いており、海側はこの鋼管矢板を候補の一つとして考えている。一方、陸側は地中に穴を掘って埋める地中壁という候補もある。地下水への影響も踏まえて検討している。

Q. 資料1-②P3、冷温停止の定義は、日々压力容器下部等の温度を公表しているが、それらの温度が100℃以下になるということなのか。

A. そのように考えている。

Q. 瞬間的に100℃以下になっても冷温停止とみるのか。また、100℃以下といっても、100℃以下には幅があるがどう評価するのか。

A. 安定的に100℃以下が維持できることと考えている。どれ位の温度まで下げるかは注水量との兼ね合いもあり検討中である。

Q. 压力容器回りの温度ではなく炉水温度を測ることはしないのか。

A. 炉水温度を測ることは難しい。压力容器底部の温度を使って評価している。

Q. 保安院としてはそのような理解でよいのか。

A. (保安院) 現状の考え方ではそのような考え方で良いと思っているが、政府を含めしっかり議論していきたい。

- Q. 除染をしながら破損箇所へ近づく考えはないのか。主な対策の中から熱交換機設置等の項目を削除して破損箇所を確認できず冷温停止することで安定した状態と判断できるのか。
- A. まずは、安定的な冷却ができることが必要と考えている。現在は循環注水冷却が順調なため、当初の項目を実施できずにこしたことはないが、引き続き検討していきたい。

- Q. 参考資料2、現時点での放出量の暫定評価において、100%放出と仮定して放出量を算定しているが、実際は何%位の評価なのか。
- A. R/B上部でのダストサンプリング、サブドレンや大物搬入口の風量測定等で評価しているが、直接放出量を測定する方法を継続して検討していきたい。また、採取したデータをもとにモデルを作って、ステップ2の期間内にお示ししたい。

- Q. 保安院は、今回のロードマップの発表で、緊急時避難準備区域の見直しに結びつくと考えているのか。
- A. (保安院) 原子力施設として、どれ位安定した状態となったのかしっかり評価する必要があり、原安委と評価を始めたところ。安全性の実現を見極めることが必要で、その評価を見て解除できるのか見極めたい。

- Q. 参考資料2、暫定での評価が約10億ベクレル/hだが、「0」になるのはいつか。
- A. R/Bからの放出量と地上からの舞い上がりの量の区別ができないが、今回は全て発電所から出ているものの評価として約10億ベクレル/hとしている。
1.  $7\text{ mSv/年}$ は大きい値だと思うが継続して評価していきたい。
- Q. 保安院として自然界に与える影響をどのように考えているか。
- A. (保安院) 評価が難しいが線量評価として放出量を評価すると、保守的な値としては最大と考えている。平常時(法令上 $1\text{ mSv/年}$ )と比べて同程度である。事故当初と比べると相当下がってきてはいるが十分ではないためステップ2で東電に努力してもらい実態に近い値を出してもらいたい。

- Q. 資料2、保安院の原子力被災者への対応について、線量マップの作成や一時帰宅の一巡はステップ1で終了しなくてはいけないものであったが、何ができて何ができなかったのかを評価して欲しい。
- A. (保安院) 5/17のロードマップと比べると対応が遅れている。準備が十分でなかったり、一時帰宅等は要望者が多かった。マップは土壌等細かい測定が必要であった。他方でステップ1で前倒しで対応できたものもある。ステップ2の中でもう少し様子を見て行きたいし、原子炉の状態に関係なく取り組める物もあるためしっかり取り組んでいきたい。
- Q. 菅総理と首長の会談の中で、ステップ2での実施事項でも前倒ししていきたいとの発言があったが、できる物があれば教えて欲しい。
- A. (保安院) 発言の真意を確認できていない。どの項目についてもできるだけ速やかに対応していきたい。

Q. 総理のリップサービスだったのか。

A. (保安院) 被災者支援の前倒しというより、プラントの収束への取り組みの前倒しという趣旨の発言かと思われる。

Q. 1～3号機について希望的観測ではなく、いつ頃冷温停止するのか見通しを示して欲しい。

A. 現在1号機は、100℃をやや上回る位であり、注水量を増やせば早めに冷却できるが、一方で循環注水冷却で高レベルの滞留水を減らすことも優先させなければならない。また、淡水化装置の現在のRO方式(1000トン/日に対し、400トン/日を淡水化)で発生する600トン/日の高濃度の塩分の処理のために濃縮方式を導入する予定で、冷温停止、滞留水の減少、処理水を総合的に見て注水量を考えているところ。

Q. 水処理の処理率を来月中に90%にすることを目標にしているが、濃縮方式の導入により達成できるのか。

A. それぞれの装置がそれぞれの機能を果たさなければならず、そこが課題であるが1つ1つクリアし性能を上げていきたい。

Q. 特定避難勧奨地点の伊達市は、地域ごとの避難を希望している。また、ガレキの処分場について県内は受け入れない言っている。政府と県や住民の間に齟齬があるがどう考えるのか。

A. (保安院) 伊達市の件については、地域での設定を希望していると報道等で聞いているが、それを踏まえ相談させてもらっている。より良い制度にしていきたい。ガレキの最終処分地の選定については難しい。県や市町村と相談しながら進めていく。

Q. 伊達市については、制度自体見直す事もあるのか。

A. (保安院) 伊達市と相談しながら進めていく。継続的なモニタリングの実施等も含め検討していく。

Q. 牛のセシウムの問題は今後のロードマップ上に、えさの確保、全頭買い取り等も盛り込む予定はあるのか。

A. (保安院) 現在は、当面の取り組みのロードマップの「10. 農畜産業・水産業等」の中に盛り込むことが考えられるが、現在は日々の対応に注力しているところ。今後対応を考えていきたい。

Q. 資料1-②P7、本格的な水処理施設の設置検討とは、アレバ、キュリオソ、サリーを想定しているのか。

A. サリーは近々導入する。サリーは現在の水処理の一環をなすもの。本格的な水処理施設というのは、耐久性等基盤となるシステムであることを想定している。独立したものを作るのかということも含め検討していく。

Q. 4月～ステップ1ということで、3～6ヶ月程度との言い方をしていたが、3～6と幅を持たせている理由は。

A. 現場の状況から分かってきたことは、線量の問題等プラント毎の状況は様々であるということ。状況に応じて考えていかなければならない。窒素封入については3台同時には

実施できず3号機が遅れた。SFP冷却も既設を使うか仮設を使うか等違いがあった。機器の状況によって早くできるものとそうでないものがあるため現場を見ながら進めていく。そのためにも幅を持たせており、幅をもって設定することが現実的かと思う。

- Q. 3～6ヶ月での冷温停止の項目は変更していないが。
- A. 変更していない。早くできるものをやっていく。
- Q. 中期的な取り組みの時期の目安はどれ位か。
- A. ステップ2終了後の3年位で一通りの技術で課題を達成できるものと考えている。

Q. 一時立ち入りの実績は。また特定避難勧奨地点設定に対する伊達市への具体的な支援策は。

A. (保安院) 一時立ち入りは7/17現在、11,248世帯、19,205人。特定避難勧奨地点の指定については協議中で速やかに取りまとめたい。支援策については、国民健康保険、国民年金の対応については6/30にお知らせ済みだが、追加支援策としてNHK受信料の免除を実施していく。

Q. 具体的に避難するにあたっての支援についてはどうか。

A. (保安院) 賠償の方になるかと思うが、引っ越し費用等賠償の範囲による。紛争審査会で議論されており、7/末に向け中間指針がまとまり言及されることを期待している。

Q. メルトスルーした燃料は現在どのように評価しているのか。

A. メルトスルーという言葉は我々は使用していないが、マップでの解析結果では压力容器底部での損傷が確認されているが、制御棒駆動機構貫通部の中でも冷却されていることも考えられ、炉心がドロドロ落ちるとは考えにくい。燃料が格納容器に達しているのであれば、注水により压力容器下部温度が下がるが、温度が上下していること、また燃料が格納容器から抜けているようであれば、モニタリングデータにも表れると考えるが表れていない。

Q. 当初、水栓させる予定であったことから、燃料損傷率についても想定が甘かったと思われる。想定外という評価にならないようメルトスルーの評価をするべきではないか。

A. 当社としては、燃料の大部分は压力容器内にあると判断しているが、格納容器の状況を温度以外でも把握できるように努めていく。

Q. 中期的課題が3年程度ということだが、避難者に対しどのように思っているのか。

A. 炉の冷却等による事態の収束により、1日も早い帰宅を実現することがそもそもの目的である。中期的課題については、ステップ2の終了時期に評価したい。

Q. 避難区域が解消されるには、一定の「安定的な状態」が確立されることが必要なのではないか。

A. このロードマップは、技術的な課題を列挙したもの。中期的課題の解決がイコール避難の解消ではないと考えている。

Q. 作業員の被ばく管理の徹底と作業員の確保についての見通しは。

A. 被ばく管理については、データでの管理やWBCの実施など改善を図ってきた。線量管理もしっかり行っている。作業員の確保については、作業量の見積もりを早めに出し、

可能な範囲で作業の遠隔操作も進める。早めにしっかりと計画をたて限界がこないように管理をしていく。

Q. 保安院としてはどうか。

A. (保安院) 保安院は要員の確保はしないが、東電にシステムをしっかり作ってもらい、管理システムを踏まえ、働く環境作りに保安院としても知恵を出し、国としても見守っていく。

以上

情報共有

2枚 (非管理メモ)  
宮印班, NISA班 ← プレス対応チーム

7/19 (火) 福島地域支援室20時定例レク概要  
(道筋レク、県レクがあったため22:30開始)

【説明内容】

①福島第一原子力発電所 プラント状況等のお知らせ

(7月19日 午後3時現在) 【資料配付】

- ・体調不良者の追加情報について

②・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について  
(第百十六報)

- ・福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について (第百十八報)
- ・福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について (7月18日採取分)
- ・福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について (7月18日採取分)
- ・集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果

【全て資料配付】

③福島第一原子力発電所の状況について 【資料配付のみ】

④本日の作業状況、明日の作業予定について 【口頭説明】

- 3uT/B仮設屋根の小穴へのパネル設置等について
- 1、4u SFP工事について
- 4u SFP底部支持構造物設置工事について
- 大型タンク設置作業について
- リモートコントロールでのガレキ撤去について
- 大型タンク設置作業について
- リモートコントロールでのガレキ撤去について
- 仮設機器類の固定作業、土嚢設置、パトロールの実施
- 明日は屋内作業のみの予定

<水位>

- 1~4号機T/B地下階水位について
- 1~3号機トレンチ立坑水位について
- 1号機R/B地下階水位について
- プロセス主建屋水位について
- 雑固体廃棄物減容処理建屋について

【主な質疑】

Q. 確認だが、熱中症の方の年代は。

A. 協力企業の20才代男性。

Q. 道筋レクでの10億ベクレルの評価数値は計算上の数値なのか。

核種分析ではNDだが。

A. 全く出ていないわけではない。検出限界の幅の中でごく僅かには出ている。

多くは土が舞い上がりその放射性物質と思うが、それとは分けて評価できないため原子炉から出ていると保守的にみての数値。

Q. 海底土については。

A. 湾の中も海底土を定期的に採取していく。その都度の報告かまとめたの報告にするかは検討中。

以上